

Verification of Rhythm Acquisition Using "Rhythm Patterns of Words

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 戸川, 晃子, TOGAWA, Akiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20608/00001203

原著

「ことばのリズムパターン」を活用した
リズム習得についての検証戸川 晃子¹⁾Verification of Rhythm Acquisition Using
“Rhythm Patterns of Words”Akiko TOGAWA¹⁾

要旨

筆者はピアノ初学者における効率的かつ効果的なピアノ教授法の確立を目指し、これまでに「音符の言語化（リズムに合うことばを考え、それを音型にあてはめること）」がリズム習得に有効であることを報告してきた。本研究では「音符の言語化」を学習者自身が「ことばのリズムパターン」を活用して行うことにより、独習によってリズムを習得することができるかを調査した。その結果、「ことばのリズムパターン」にあてはめたことばを活用することで、楽譜だけではリズムを理解することができなかった学生協力者の約97%（30名/31名）がリズムを理解することが可能になった。また、すべての協力者が「ことばのリズムパターン」にあてはめたことばが「リズム習得に有効」であると考えていることが明らかになった。本解析結果は新たなリズム習得指導法（独習法）開発の基盤となると考えられる。

キーワード：ピアノ教授法、リズム、音符の言語化、保育者・教員養成校

Abstract

I have already reported the effectivity of the “verbalization of musical notes” for rhythm acquisition to establish an efficient and effective method for teaching piano to beginner students. The “verbalization of musical notes” is a method of rhythmic-acquisition by thinking of words that match the rhythm and matching them to sound patterns. In this study, I investigated whether it was possible for students to acquire rhythm through self-study by finding and utilizing words whose sound patterns were matched to “verbal rhythm patterns.” As a result, 97% (30/31) of the students could understand rhythm with the support of words, while they could not understand

1) 教育学部こども教育学科

rhythm through the musical scores alone. Moreover, all students considered it effective in rhythm acquisition. These results provide important fundamental information for developing a novel rhythm-acquisition teaching and studying method.

Key words: Piano Method, Rhythm, Verbalizing Musical Notes, Teacher Training School

はじめに

筆者は「音符の言語化」がリズム習得に有効であることを検証し報告してきた¹⁾。ここでいう「音符の言語化」とは、音符が示すリズムと同じリズムのことばを当てはめる実践を意味する。これまでの研究で「音符の言語化」に適した「ことばのリズムパターン」を抽出することができた²⁾。この「ことばのリズムパターン」をピアノ学習者に提示することで、学習者自身がそれに合うことばを考え、活用することでリズムに関しての独習が可能になるのではないかと考えた。そこで本研究では、筆者の保育者・教員養成校の協力者の学生に、「音符の言語化」に適した「ことばのリズムパターン」のみを提示し、そのパターンに合うことばを収集した。その一覧から協力者が最もリズムに合致すると考えることばを選択し、それらを用いることによりリズム習得が可能であるかを調べた。

1. リズム学習の背景と本研究の意義

筆者はピアノを弾かない時間に着目し、限られた時間の中でより効果的かつ効率的なピアノ学習法の構築をめざして研究を進めてきた。ピアノ学習者、とりわけピアノ初学者がリズムを習得することにより演奏評価が上昇し、リズム習得ができた学習者には曲の流れを重点的に指導することにより演奏評価が上昇することを定量的に導いた³⁾。また、これまで実践してきた「音符の言語化」がリズム習得に有効であるだけでなく、ピアノの演奏技術や演奏表現の向上にも効果があることを示

唆する結果を得た⁴⁾。この「音符の言語化」は、1人での練習時においても正しいリズムを再現することが可能であるため、習得したリズムの定着にも役立つと考えられる。

ことばによるリズム習得は一般的にも行われている。代表的なものでは、Carl Orff (1895-1982)の音楽教育において、ことばをリズム化することで生きたリズムを学ばせている^{注)}。この「ことばとリズム」の関係を逆転させる試み、すなわち音楽を言語化する「音符の言語化」を用いてリズムを学ぶ実践は、幼児教育、音楽教育の場において取り入れられ始めている。高橋 (2019) は著書の中で様々なリズムパターンにことばを提案している⁵⁾。そこでは、指導者は自らの経験にもとづき、例えば正しいリズムを伝える方法として、ことばの持つリズムを用いて指導することが有効であると考え実践している。Steven Mithen (2012) は、「音楽にも言語にも、感情を豊かに表現するフレージングの性質がある」とし、韻律は、「話しことばのメロディとリズムを意味する」と述べている⁶⁾。Philip Ball (2013) は、「言語の場合も、音楽の場合も、リズムに関する情報の処理は、脳の同じ部位で行われている可能性がある⁷⁾」という。すなわちことば、音楽、リズムは密接な関係がある。Patelらの研究でもまた、リズムの面でも、メロディの面でも、言語はその民族の音楽に影響を与えているということがわかっている⁸⁾⁹⁾と述べられている。

筆者はこれまで行われている指導者からのことばの提案によるリズム習得ではなく、学習者自身がリズムに合うことばを考案・選択することにより、特に指導者がいない独習時においてもリズム

の再現がしやすくなり、より効率的なリズム習得と定着を図ることができるのではないかと考えた。このことが実証できれば、新たなリズム習得指導法開発につながると考えられる。

このような着想のもと、筆者は先行研究でピアノ学習者から収集した「音符の言語化」によることばを解析し、音符のリズムに適した「ことばのリズムパターン」を抽出した。本研究では、この「ことばのリズムパターン」を活用し、リズム習得が可能であるかの調査を行った。

2. 実践方法

本実践では、筆者がことばのリズムパターンを示し、協力者が提示されたリズムパターンにあてはまることばを考え、そのことばを提出した。筆者は提出されたことばを一覧にし、協力者に提示した。そして、協力者は、その一覧のことばを発音しながら発音に合わせてリズムを打ち、最も気に入ったことばを選抜した。次に、ことばのリズムパターンが示すリズムの楽譜を示し、そのリズムを再現した場合と、協力者自身が選択したことばを発音しながらリズムを再現した場合とを比較し、どちらがリズムを正しく再現できたかを調べた。

2-1. 実践手順

(1) ことばのリズムパターンを協力者に示し、それ

ぞれに合うことばや文章を考え、提出することを求めた(表1)。ことばを考える際の注意として、「一」は「っ」(促音)でもよいこと、「ん」や「ゃ」「ゅ」「ょ」「ぁ」「う」(拗音)は前の文字に含むことを追記した。また例として、「〇—〇〇」の場合、トースト、チップス、ファックスというようなことばを記した。

- (2) 収集したことばを筆者が一覧にし、協力者に最も気に入ったものを選択させた。
- (3) 楽譜のみを示された場合と選抜したことばを発音した場合とを比較して、どちらが正しくリズムを再現できたかを自己評価させ、manabaのアンケート機能を用いて回答を求めた(表2)。アンケート項目1~5については、「はい」または「いいえ」の選択、6については自由記述とした。

なお、本研究では、先行研究により抽出した「ことばのリズムパターン」を活用した(戸川 2022)¹⁰⁾。Aはバイエル教則本第89番冒頭右手部分(図1)¹¹⁾、Bはバイエル教則本第94番冒頭右手部分(図2)¹²⁾のリズムをことばのリズムパターンとして示したものである。

2-2. 研究協力者

研究協力者は本研究に同意した保育者・教員養成校の学生60名である。なお、学生には研究協力に対する同意は何時でも撤回可能であること、同意するか否かは成績には無関係であることを示し

表1 「ことばのリズムパターン」に合うことばの提出を求める文書

A 「〇〇—〇〇 〇〇—〇〇」

B 「〇〇—〇 〇〇—〇 〇〇〇〇 〇—〇—」

〇に一文字を入れてことば、文章を完成させる。

その際話し言葉として自然なリズムとする。

ただし、「一」は「っ」(促音)でもよい。

「ん」や「ゃ」「ゅ」「ょ」「ぁ」「う」(拗音)は前の文字に含む。

例) 〇—〇〇 トースト、チップス、ファックス

表2 楽譜を見た場合とことばをあてはめた場合のリズム習得についてのアンケート項目

- | |
|---|
| <p>1、Aの楽譜を見てすぐにリズムがわかりましたか。</p> <p>2、Aの楽譜に自分が選んだことばを当てはめたときリズムがわかりましたか。</p> <p>3、Bの楽譜を見てすぐにリズムがわかりましたか。</p> <p>4、Bの楽譜に自分が選んだことばをあてはめたときリズムがわかりましたか。</p> <p>5、ことばをあてはめることで楽譜のリズムの正しさを理解できたと思いますか。</p> <p>6、5についてなぜそう思うか自由に書いてください。</p> |
|---|



図1 Aのことばのリズムパターンが示すバイエル教則本第89番冒頭右手部分



図2 Bのことばのリズムパターンが示すバイエル教則本第94番冒頭右手部分

た文書を配布し、一読した上で、同意する場合は同意書に署名をし、提出した。本研究は、神戸常盤大学研究倫理委員会の承認を得て遂行した。

協力者はAで1名のみ、Bでは0名であった。また、100%の協力者がことばをあてはめることでリズムを理解できると回答した。

2-3. 実践時期

本実践は2022年に行った。

3. 結果

各パターンにおいて、協力者60名からことばが提出された。同じことば、協力者の個人情報が含まれているもの、明らかにパターンと異なることばは除外し、Aについては36個のことば、Bについては33個のことばを一覧にした(表3)。アンケート結果は60名提出し(表4)、Aについては楽譜のみの場合リズムをすぐに理解できなかった協力者は22名、Bについては、9名であった。ことばをあてはめた場合でもリズムがわからなかった

4. 考察

A及びBの結果を総合すると、楽譜のみではリズムを理解できなかった約26%の協力者(31名/120名)は、「ことばのリズムパターン」にあてはめたことばを活用することで、その約97%(30名/31名)がリズムを理解することが可能になった。また「ことばをあてはめることで楽譜のリズムを正しく理解できたと思うか」については100%の協力者が肯定し、その理由を問う自由記述回答において、「普段使っていることばをあてはめることで理解しやすい」、「楽譜を見ただけでは正しいか不安だが、ことばをあてはめることで正しく理解できる」など、60名全員がわかりやすくなったと回

表3 提出されたことばのリズムパターンに合うことばの一覧表

Aのことばのリズムパターン 〇〇-〇〇 〇〇-〇〇		Bのことばのリズムパターン 〇〇-〇 〇〇-〇 〇〇〇〇 〇-〇-	
1	ルビーはね キラッキラ	1	くれーぶ くれーぶ おなかが ぐーぐー
2	カレーうどん クリームぱん	2	ベジータ フリーザ ふじなみ ピッチャー
3	カレーうどん オリックス	3	スキップ ステップ あめだま ヨーヨー
4	自転車で かけっこだ	4	ドトール ドトール おいしい コーヒー
5	スキップで かけっこだ	5	ホイップ クリーム ベタ塗り クッキー
6	マレーシア リラックス	6	シロップ シロップ あまあま コーヒー
7	フレールベル フレーグラ	7	ストーブ モビール はなよめ チーター
8	フルーツパン スマートフォン	8	サポート、レポート、アナログ、チーター
9	マレーシア リニューアル	9	デザート テリーヌ おいしい やったー
10	フレールベル プローチダ	10	デザート デザート おともに コーヒー
11	スケールを フルーツで	11	カレー粉 カレー粉 まぜませ しゅーりょー
12	フレールベル プレツェル	12	スカート スカーフ マスカラ シーズー
13	クリームパン まほ一部屋	13	カレーと シチューを はいたつ ウーバー
14	ドトールか タリーズか	14	ふわっと もふっと わたあめ ふーふー
15	スラックス リラックス	15	あまった スペース つめたら オッカー
16	デトックス リラックス	16	メニューは ポタージュ てりやき バーガー
17	トラックが はしってる	17	わらって スキップ たのしい パーティー
18	おこったよ わかったよ	18	グレープ グレープ おあじはジュシー
19	ブルーギル ブルーギル	19	いこーよ いこーよ たのしく ゴーゴー
20	飛行機で マレーシア	20	フルーツ フルーツ わくわく ぴーぴー
21	オリックス ホイッスル	21	コロッケ サクッと 串カツ ジュージュー
22	エアームド カメックス	22	お父さん お母さん 毎日 ヒーロー
23	ポタンエビ ポタンエビ	23	バクーダ ジュベッタ パチリス ドーダー
24	クロックス クロックス	24	こまったトリック なぞとき ムービー
25	ハニーパイ ハニーパイ	25	スケート スケート 冷たい ハーハー
26	ハニーレモン スターコイン	26	飛行機 ロケット なにあれ UFO
27	おようふく おようふく	27	バラード グレード サイコロ アッパー
28	クレープが カレー味	28	フレーク スプーン きいちご コーヒー
29	ステータス スルーパス	29	ロケット ロケット ほしまで ゴーゴー
30	クロックス リラックス	30	スティッチ ラビット ドナルド メーター
31	コロンプス コロンプス	31	フルーツ、どろんこ、パブリカ、ラッパー
32	ハニーレモン フェニックス	32	トローチ トランプ モナリザ ペーパー
33	ラプンツェル コロンビア	33	パニーニ パニーニ おいしい ハッピー
34	スラックス リラックマ		
35	ひがんばな チキンカツ		
36	フレールベル アコーデオンの		

表4 楽譜を見た場合とことばをあてはめた場合とを比較したアンケート調査結果

質問項目	回答人数	
	はい	いいえ
1、Aの楽譜を見てすぐにリズムがわかりましたか。	38	22
2、Aの楽譜に自分が選んだことばを当てはめたときリズムがわかりましたか。	59	1
3、Bの楽譜を見てすぐにリズムがわかりましたか。	51	9
4、Bの楽譜に自分が選んだことばをあてはめたときリズムがわかりましたか。	60	0
5、ことばをあてはめることで楽譜のリズムの正しさを理解できたと思いますか。	60	0

答し、うち20名の協力者が単なる「ことば」という表現ではなく、「普段使っている」ことば、「なじみのある」ことばを用いることでリズムを正確に再現できたと記述していた。このようにピアノ学習者がリズムの理解と再現を行う際には、学習者自らが「ことばのリズムパターン」にあてはまる「普段使っている（なじみのある）」ことばを選択し活用することが非常に効果的であることがはじめて実証的に示された。

前述のように、ピアノ学習者、とりわけピアノ初学者の演奏上達のためにリズム習得が重要なことを筆者は明らかにしてきた。このリズム習得に有効な方法として、「なじみのあることば」を利用することの有効性への言及がされてはきている。例えば、細田（2006）はその著書の中で「一見難しいリズムも、子どもたちになじみのあることばに置き換えることで、かんたんに楽しく覚えられます」¹³⁾と述べている。しかしながらこれらは主として経験にもとづく推察であったこと。また、これまで「なじみのある言葉」を考えるのは指導者側であったこと。これらが「音符の言語化」によるピアノ指導法（独習法）開発の制約となり、実践的なピアノ指導法にまでは結びついていないのが現状である。この点において、本研究が示した「指導者が「ことばのリズムパターン」のみを示す」➡「学習者自身がそのパターンに合うことばを考える」➡「効率的なリズム習得が可能になる」というプロトコルは、新たなリズム習得指導

法（独習法）開発の基盤となると考えられる。今後、本プロトコルによるリズム習得効果を、プロトコル実施前後のリズムを録音、解析することにより、客観的に評価できるシステムの構築を進めていく予定である。

一方で、リズム習得指導法（独習法）という観点からは、Aのリズムにおいて、ことばをあてはめた場合でもリズムを再現できなかった約3%の協力者（1名/31名）の自由記述には「ことばをあてはめることが難しい」とあった。この協力者が提出したことばは、A及びB共にことばのリズムパターンに合わず一覧から除外されていた。すなわちこの協力者はAのリズムにあう「なじみのあることば」を「ことばのリズムパターン」にあうことばの中から見出すことができなかった。このことから2つのことが示唆される。1つは「ことばのリズムパターン」にあうことばを、より多く収集してアップデートする必要があること。これにより、協力者はより多くの「ことばの『リズムパターン』」にあうことばの中からの選択が可能となる。もう1つは音符を文字に変換する「音符の言語化」ルールには、改良の余地がある可能性があることである。「ことばのリズムパターン」にことばをあてはめる場合、「音符の言語化」ルールが必要であるが、はじめはひとつの音符に1文字をつけることとした。しかし解析を進めていく中で、ひとつの発音を1文字としてリズムを表すことが適切だと考えられたため、本研究では、「一」は「っ」（促

音)でもよいこと、「ん」や「ゃ」「ゅ」「ょ」「ぁ」「う」(拗音)は前の文字に含むことにした。今後の研究の中でさらに「音符の言語化」ルールの改良を行うことで、「なじみのあることば」を見出しやすくできる可能性が考えられる。

5. 結論

ピアノ学習者自らが「ことばのリズムパターン」にあてはまる「普段使っている(なじみのある)」ことばを選択し活用することがリズムの理解と再現に効果的である。また本研究で用いた「指導者が「ことばのリズムパターン」のみを示す」→「学習者自身がそのパターンに合うことばを考える」→「効率的なリズム習得が可能になる」というプロトコルは、新たなリズム習得指導法(独習法)開発の基盤となると考えられる。今後、本プロトコルによるリズム習得効果の客観的評価システム構築を合わせて進めていく予定である。

謝辞

本研究は科研費(17K04825)の助成を受けている。

注釈

Carl Orffは、「言葉」によるリズム指導の大切さを、「シュールヴェルク第1巻」の中で、「すべての音楽の練習の開始においては、リズムに関することも、メロディーに関することも、話し方の練習に根ざしている。」と述べている¹⁴⁾。

文献

- 1) 戸川晃子. 「音符の言語化」によるリズム習得の可能性. 神戸常盤大学紀要. 2021, Vol.14, pp.70-74.
- 2) 戸川晃子. 「音符の言語化」に適した「ことばのリズムパターン」の抽出. 神戸常盤大学紀要. 2022, Vol.15, pp.61-67.
- 3) 戸川晃子. 演奏評価解析から導き出すピアノ指導ポイント. 神戸常盤大学紀要. 2019, Vol.12, pp.9-15.
- 4) 戸川晃子. ピアノ教授法における音符をことばにする試みー演奏技術向上への一可能性ー. 神戸常盤大学紀要. 2016, Vol. 9, pp.43-50.
- 5) 高橋千佳子. ことばで味わうリズム唱入門. 音楽之友社, 2019, pp.81.
- 6) スティーヴン・ミズン. 歌うネアンデルタール. 熊谷淳子訳. 早川書房, 2012, pp.41-42.
- 7) フィリップ・ボール. 音楽の科学ー音楽の何に魅せられるの?. 夏目大訳. 河出書房新社, 2013, pp.540-541.
- 8) 前掲書, pp.543.
- 9) Aniruddh D.Patel. MUSIC, LANGUAGE, and the BRAIN. Oxford University press, 2008, 513.
- 10) 2) 同書
- 11) バイエル. バイエルピアノ教則本. 全音楽譜出版社, pp.60.
- 12) 前掲書, pp.64.
- 13) 細田淳子. わくわく音遊びかんたん発表会. 鈴木出版株式会社, 2006, pp.50.
- 14) 村山淳子. C. オルフの音楽教育理念に基づく幼児のリズム指導について: 「音楽リズム」における実践のために. 長野県短期大学紀要. 1985, 第40号, pp.114.